

平成29年度 群馬県立太田フレックス高等学校
第2回学校評議員会及び学校関係者評価委員会（概要）

実施日時：平成30年1月19日（金）14:00～16:00

議事等

1 開会

2 校長挨拶及び学校概要説明

○入学者選抜

- ・これから、春季編入学者選抜、前期入学者選抜、後期入学者選抜、そして、状況的に夜定再募集と4つの選抜が行われる。

○進路関係

- ・玄関に、生徒の進路実績掲示板を設置した。生徒の実績を広報するとともに、生徒の励みになるものでもある。
- ・4年制大学に10名進学したりと進路は順調に決まっている。140～150名が卒業予定である。

○重点取組事項

- ・退学者をいかに減らせるかという課題に取り組んでいる。退学者数はコンスタントに120名くらいで、それを超える年もあった。これに対し、昨年度は75名、今年度は1月19日現在で57名である。
- ・学習活動がないと退学となるのが本校である。生徒が目的意識を持てることや、自分を大切にすることが重要である。さらに、退学者を減少させたい。

○行事

- ・行事にはバリエーションを持たせている。大過なく進んでいる。

○通信制

- ・通信制の300半ばの在籍者の中には、活動をしていないものもいるが、170名程度が単位修得する予定である。

3 各部状況説明

○ⅠⅡ部

- ・卒業予定者は昨年より増加している。4年制大学進学者は昨年は0名であったが、今年は7名である。就職率は100%である。

○Ⅲ部

- ・春卒業の18名中14名が進路決定している。引っ越し等の関係で2名、卒業してから考えるという状況が1名、手続きの関係で1名がまだ進路が決まっていない。

○通信制

- ・355名中167名が学習活動している。秋卒業・春卒業の人数は年度により変動がある。すでに働いている生徒が多い。子育て中の生徒もいる。

4 学校行事説明

○ⅠⅡ部

- ・運動部が7つ、文化部が3つ、同好会が2つ、そして、青少年赤十字委員会があり、ⅠⅡ部・Ⅲ部が合同で活動している。
- ・2学期制であり、前期は、生徒が学校に慣れるような行事があり、後期には定時制全体のチャレンジウォークやフレックス発表会がある。
- ・チャレンジウォークやフレックス発表会等が『上毛新聞』で紹介された。

○Ⅲ部

- ・Ⅲ部では時間の関係でゴミレンジャーは実施していない。Ⅲ部独自に、校内生活体験発表大会、球技大会、予餞会を行っている。

○通信制

- ・スクーリングが年16回ある。体育行事〔ぐんまこどもの国アドベンチャーラリー〕を実施している。校外学習〔足利フラワーパーク〕は台風のため中止となった。スクーリングと合わせて、生活体験発表大会や健康安全教室等も実施している。

○共通内容

- ・個別の学校訪問を実施している。さらに、9月に主に入試について説明する「中学生対象学校説明会」、中学校の教員に本校を理解した上で三者面談で指導をしてもらえるように「中学校職員対象授業公開・見学会」、そして、11月に初めての試みとして、「オープンスクール」を実施し、中学生に授業や部活動発表を見てもらった。
- ・定時制では、5月から1月15日まで随時、中学生の授業見学を受け入れた。労力は要するが、地道に行うことが重要である。
- ・中学校で90日以上欠席している生徒が志願者の3、4割を占める。本校の実態を分かった上で、是非入学してもらいたい。
- ・授業見学をした中学校の先生から「こんなにちゃんとしている学校とは思わなかった」という言葉をいただいている。

5 学校評価の説明

○定時制

- ・「完全な単位制」「学年、学級がない」「ゼミ活動」の3つは本校の大きな特色であり、これらについては1、2%であるが肯定的な回答数や出席率の数値は上がっている。しかし、否定的な回答もあるので対応したい。単位制の履修については、進路目標を具体化させることで、履修に結びつける。学年、学級がない中で、出席率を上げるため、出席状況の確認を徹底し指導に反映する。ゼミについては、生徒がより主体的に活動に参加できるようにする。
- ・学校設定科目は、「ことばと生活」「みんなの数学」「ガーデニング」等の18講座がある。履修している生徒の満足度は高いが、学校選択科目を履修している生徒は54%である。より多くの生徒が履修するように、科目説明を十分に行うとともにより生徒のニーズにあった授業を行う。
- ・学力向上については、「主体的で対話的な深い学び」のために、研修や自己研鑽を継続する。授業だけでなく、考査でも思考力・判断力・表現力を問う。
- ・学校行事については、チャレンジウォークがよりよいものになるように、問題点をより明確にした事前指導を行う。フレックス発表会がより満足のいくものとなるように、生徒が発表会の意義

を認識しながら取り組めるようにする。

- ・進路希望未決定者21%であるが、まずは卒業を目標とする生徒もいる。将来の進路実現につながるような個別指導を行いたい。

○通信制

- ・以下の項目において、第2回アンケートの結果を受けて、第1回の評価よりも下げた。特に保護者からの肯定的な評価が低かった。
 - ①「授業がわかりやすい・適切である」 AからB。保護者88%。
 - ②「学力が向上した」 CからD。保護者52%。これは大きな課題である。
 - ③「教育相談が充実している」 AからB。生徒90%、保護者80%。
 - ④「携帯電話やフレックス通信でいつも学校の情報を確認している」 AからB。生徒93%、保護者84%。「フレックス通信」はスクーリングに合わせて発行している。
 - ⑤「学校生活が充実している」 BからC。生徒82%、保護者76%。
 - ⑥「進路指導が信用できる」 BからC。生徒91%、保護者76%。
 - ⑦「単位修得率が60%以上である」については、まだ確定していない。通信制の全国平均は50%程度であり、本校の昨年度の数値は59.9%であった。
 - ⑧「進路目標の実現に向けて努力している」に対する生徒の肯定的な回答は71%。学校卒業が目標という生徒もいる。個に応じた指導を行い、満足度の高い教育を実践したい。

6 意見拝受

- 授業見学を随時行っていることは賞賛に値する。相手の都合に合わせるという学校のスタンスが重要である。生徒に寄り添うという学校のスタンスにより、保護者は安心する。個々を大切にすることをさらに進めてもらいたい。
- 木崎駅の様子として、以前に比べて生徒が落ち着いているという印象がある。個々を大切にする指導の結果として現れている。
- フレックス発表会では、どの会場でも快く受け入れてもらえた。演劇部の発表には感動した。以前と生徒のイメージが変わり、生き生きとしている。表情がよく、努力を感じられる。
- 通信制はD、Cと自己評価が厳しい。謙虚さは素晴らしいが、謙虚になりすぎないようにしてもらいたい。
- 色々な活動をしていて素晴らしい。進学率、就職率が向上しているのは良い。就職先の会社も信頼できる会社である。
- 保護者の評価が厳しいが、生徒との意思疎通はできていると感じる。保護者は、子供のことが心配で先生に相談したいが、遠慮してしまう。自分は、遠慮せずに手紙を書くと、先生から連絡が来る。アンケートだけでなく、保護者は先生と話したいという気持ちがある。保護者相談会があるといい。
- 色々な条件を受け入れられる学校である必要がある。
- 頭が悪い子はいない。学習の仕方や脳の使い方が分からずに来てしまい、やろうとしてもできなくて、「めんどくさい」となってしまう。運動でいうと、体を使っていない者は、運動すると「めんどくさい」「疲れた」となるが、体力がある者には面白さを教えなくても運動する。学習の仕方や脳の使い方に視点を当てると良い。脳の活性化はアクティブラーニングに通じる。「新しいことをする」「いろいろなことをする」ことが脳の活性化につながる。授業においても、いろいろなことをすることが、直接進路につながらなくても、脳の活性化につながる。行事もそうである。学

習の仕方や脳の使い方が分かると学びたくなる。そういうふうに生徒を育てる。これをバックボーンに据える。仕方が分かれば、面白くなり、人生も楽しくなる。

○生き方を学ばせる学校設定科目は良い。

○学校から補足説明：今年は、就職を取り巻く環境が恵まれていた。学校でも、短期インターンシップを行い、背中を押されてもなかなか行けないという生徒を送り出した。実施後のアンケートから、生徒がインターンシップに参加したことで変容したことが分かる。あいさつや時間を守ること等の重要性を再確認できたようだ。行ってみたら、自分に合わないと分かり、別の道を探すということもあった。これも、ある意味で意義のあることである。

○学校設定科目はどのようなものか。

[回答] ・進学を重視したセミナーや幅広い教養を育むための科目がある。

・「演劇入門」「茶道」「華道」などもあり、学校生活を充実させている。「ことばと生活」という日本語の基礎の基礎を学ぶ科目もある。

・学校設定科目にはバリエーションがある。九九が分からない生徒のための「みんなの数学」というものもある。進学だけでなく、必要な生徒に応じた科目である。外国籍の生徒のための「スペイン語基礎」「ポルトガル語基礎」や実技を伸ばす「ガーデニング」もある。学校の特色を出すとともに、生徒の現状に応じたものである。

○少人数授業に慣れている生徒が、外に出たときのギャップへの支援はあるか。短大で、なかなか集団に馴染めない学生がおり、高校の状態をチェックし対応している。学生による差があるので心配である。

[回答] ・30～40人の授業もある。必修科目は人数が多めである。

・集会や全体指導の場もある。

○単位制であるが、在籍は3年以上なのか。

[回答] ・定通制の修学年数は4年が標準であり、4年が中心だが、3年も多い。5、6年の生徒もいる。

○ゼミとはどのようなものか。

[回答] ・「総合的な学習の時間」と「LHR」に相当するものであわせて90分である。教員が得意分野を設定し、それを生徒に提示し、生徒がゼミ担任を選ぶことになる。1つのゼミは16人くらいである。希望が多い場合は抽選となることもある。ゼミのある水曜日は、他の曜日より出席率が高い。ゼミは生徒の居場所づくりとして一定の機能を果たしている。

7 意見拝受を受けて（校長）

○本日いただいた評価を今後に反映させたい。

○指摘されたように、学校自体が活性化している必要がある。

8 閉会